

競馬がますます  
楽しくなる

続 ファンにやさしい

# 馬学講座

第32回

## 輸送が競走馬に与える影響について①

講師

大村一さん

JRA競走馬総合研究所



案内人：辻谷秋人  
text by Akihito Tsujiya

輸送によって  
ストレスが増す

競走馬にとって、避けて通れないもののひとつに輸送がある。レース出走時にはトレン・競馬場間の移動がつきものである、ある意味で輸送は競走馬の日常であるともいえるものだ。さらに近年は海外遠征に際しての長距離輸送、休養・調整のためのトレン・牧場間の移動も、極めて頻繁に行われるようになった。

そこで今回からしばらくの間、輸送が競走馬に与える影響について、JRA競走馬総合研究所の大村一さんにお話を伺っていくことにする。

「輸送が馬たちにとって負担になっていくことは間違いありませんが、とくに注目すべきは精神的な負担、ストレスです」と大村さん。大村さんによれば、馬がストレスを感じる要素はいくつかある。「ひとつは暮らした慣れた馬房を離れること。もうひとつは、馬運車内で拘束されること。さらに輸送中のエンジン音や振動、そして空気の汚れなどがストレスの原因になります」

大村さんは、ストレスを感じる条件下

での心拍数の上がり具合も調査している。「平常時の馬の心拍数は毎分35〜36回というところですが、輸送中はかなり上がっていることが分かりました。とくに若い馬の中には毎分60回から100回くらいまで上がる馬も見られました。これは速歩での運動時に匹敵する心拍数です」

人でも緊張したりストレスを感じたりすると心臓がどきどきするが、それが結構な運動をしたときと同じくらいになると考えると、ストレスの度合も相当なものだと分かるだろう。

### いわゆる輸送熱とは どうして発症するのか

輸送が馬に与える影響としてよく知られているのが、輸送によって発熱する、いわゆる輸送熱だ。

「輸送熱が発症するのは、20時間を超えるような長時間輸送によってなので、通常は心配することはありません。症状としては感冒様、つまり風邪のようなものですが、ストレスによって体の免疫力が低下することで発症します。原因菌の多くはふだんから馬の体内にいる連鎖球菌のひとつで、通常は抑え込んでいるの

ですが、ストレスで抵抗力が落ちるので発熱してしまうというわけです」

免疫力、抵抗力が低下するほどのストレスはかなりのものだが、それには輸送時の環境も大きく関わっている。

輸送熱の発症状況と環境をまとめたのが、下図だ。これを見ると、馬運車内は

もともと悪い環境ではない上に、時間が経つにつれて、アンモニア濃度、馬自身の尿によるもの、ホコリ、浮遊細菌などが増えていくのが分かる。

しかも、この間、エンジン音や振動、馬運車の加速・減速はずっと続いているのだから、そりゃ熱も出るだろうと思えるほどだ。

ただレース時に20時間を超える長時間輸送はあまりないことに加えて、症状も深刻化することは少ない、と大村さん。輸送が終わって、馬が解放されれば、熱

も自然に下がっていくのだという。

いや、待て。20時間を超える長時間輸送はあるだろう、と思われた読者もいるだろう。ヨーロッパ遠征はどうなのだ。

ということ、次回は航空機による輸送について考えていこうと思う。

### 輸送熱の発症状況と環境について

